

『憲法からよむ政治思想史』

(S.S・公務員)

日々の業務において、日本国憲法の解釈及び運用について検討する機会が多い。そのため、個別の条文の根底をなす思想を考え直すことで憲法の理解を深めたいと考え、本書を手にとった。本書は憲法の条文を出発点に、各条文を支える概念を政治思想史に遡って検討することで、政治学と憲法学を架橋するものである。中心となるのは近代の政治思想であり、特に英語圏及びフランス語圏の思想についての記述は手厚い。

本書は全15回から構成される。各回で政教分離、思想・良心の自由等の個別の論点を扱っているが、別の回での議論も頻繁に参照されている。政治思想家たちの著作を豊富に引用することで彼らの思想に肉薄しており、その思想を図解等によって要約することは、全体として控えめである。最先端の研究成果も解説しつつ、さらに理解を深めたい読者のために、各回の末尾に読書案内が付されている。本書を通読することで近代の政治思想史の全体を概観できる。また、今日の世界が抱える問題に関して、本書は論点を提示し、読者が考えるための示唆を与えている。同時に本書全体が、近代とは何か、政治思想史の役割と方法はどのようなものか、という大きな問いをなすものである。